

7. 列状植栽試験

1. 試験担当者

四国支場造林研究室長 安藤 貴ほか

2. 試験目的

近年労働力の逼迫にともない、地拵、植栽、下刈作業の省力化をねらいとして、列状植栽をおこない、方形植栽との比較がなされている。しかし、現状は単一の列状植栽との比較が中心で、列間、行間をかえた場合については検討されていない。列間と行間の組合せをかえて省力の程度と林分閉鎖までの経過を明らかにすることは当面の問題として急務である。さらに列状植栽された森林の除間伐等保育の問題は、まったく手がつけられていないので、この点について資料を蓄積する必要がある。

このため列状植栽における行間、列間の組合せをかえ、地拵、植栽、下刈作業における省力の程度および林分閉鎖までの経過を明らかにし、この種の方法で造成された森林の保育問題について基礎資料を得る。

3. 昭和45年度の経過とえられた結果

列状植栽における行間と列間の組合せを1:1, 1:2, 1:3, 1:4, 1:5とかえ、3,000本植栽、2回繰返しのヒノキ試験地を宿毛営林署管内に設定し、地拵、植栽の行程を調べた。

4. 昭和46年度の試験計画

前述と同様のスギの試験地を設定する。

ヒノキ試験地の下刈行程を調査する。